

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13145

研究課題名（和文）イスラムの文化的特色に立脚した美術教育の解明を目指した基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental research for investigating art education based on Islamic culture

研究代表者

箕輪 佳奈恵（Minowa, Kanae）

筑波大学・芸術系・特任助教

研究者番号：60784915

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、多地域でのフィールドワークを通して収集した「美術教育を通じたイスラムの実践」事例を、イスラムの教義と対応させて構造化することによってイスラム文化に即した美術教育の基礎理論を生成するとともに、それらを横断的に比較して、イスラムと美術教育との関係性をめぐる地域性を明らかにすることである。(1)「美術教育を通じたイスラムの実践」事例の収集と分析、(2)イスラム文化に即した美術教育の理論化、(3)イスラムと美術教育との関係性の地域間比較、以上の3つの段階を踏んで、上記研究目的の達成を目指した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、ムスリムの子どもたちに適した美術教育を構想するための、具体的な手立てとなることが期待できる。それはイスラムや美術教育といった限られた論点にとどまることなく、多様な文化を尊重・応用した教育モデルとして、多文化教育や教育開発・支援など幅広い研究・実践領域へと派生する可能性を有するという点において、学術的・社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to construct a fundamental model of art education based on Islamic culture by specifying Islamic dogma corresponding to some cases of 'practice of Islam through art education' that were collected in multiple research fields and investigate regionality of the relationship between Islam and art education through its comparison between the regions. The aim is accomplished through three researches: collecting cases of 'practice of Islam through art education', model structuring of art education on Islamic culture, and interregional comparison of relationship between Islam and art education.

研究分野：教科教育

キーワード：美術教育 イスラム 多文化 フィールドワーク 国際比較 中東 南アジア

1. 研究開始当初の背景

(1) 学術的背景

イスラム文化に即した美術教育の必要性

イスラム世界(多文化圏を含む)においては、美術教育は受容れられ難い存在として従来とらえられてきた。「イスラムとは日常生活の宗教であり、ムスリムの教育に『世俗的』という言葉はない」(Pickthall, 2008)という言葉の通り、美術教育をめぐる様々な場面においてもイスラムは影響しており、それが現代の美術教育における思想・理念と齟齬をきたすといった現象が生じてきたからである。例えばそれは、宗教的信条を根拠とした人物・動物表現を嫌悪する子どもたちの存在(Hickman, 2004)や、美術を通じた自己表現という個人中心な教育理念への疑問(EI-Bassiouny, 1984)といった形で現れている。現代は特に、人口偏在や越境移動を背景に世界規模でムスリム人口が急増する状況(PEW Research Center, 2017)であるとともに、それに伴う軋轢が頻発する時代なので、ムスリムの子どもに適した美術教育を構築することは、国・地域を問わず喫緊の課題である。

「美術教育を通じたイスラムの実践」の可能性

研究代表者は、これまで取り組んできた美術教育とイスラムとの関係性を探る研究を通して、ムスリムである教師たちが、イスラムに基づく価値観・習慣を美術教育に結びつけ、教育実践に宗教的価値を付加する傾向があることを明らかにしつつある。研究代表者はこれを「**美術教育を通じたイスラムの実践**」と定義し、イスラム文化に即した美術教育の基礎理論とすべく、ムスリムの教師たちによるイスラムを意識した美術教育実践と、その宗教的根拠との関連を構造化する試みを続けてきた。

(2) 学術的「問い」

研究代表者が明らかにした「美術教育を通じたイスラムの実践」は有意義かつ新規な知見ではあるものの、汎用的な理論とするにはバリエーションが少ないこと、調査地の特性が影響したが故の限定的な成果である可能性が捨てきれないこと、この2つの限界があった。その打開には、理論構築のための事例をさらに追求することと、そのために調査対象を広げ、イスラムと美術教育との関係性(「美術教育を通じたイスラムの実践」の有無を含む)を多地域間で比較検討しその特色を抽出することが、今後の課題であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、「美術教育を通じたイスラムの実践」事例を、多地域でのフィールドワークを通して広く収集し、それらとイスラムの教義とを対応させて構造化することによって、イスラム文化に即した美術教育構築のための基礎理論を生成するとともに、その横断的な比較を通して、各地域におけるイスラムと美術教育との関係性に関する包括的な特色を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

- (1) 「美術教育を通じたイスラムの実践」事例の収集と分析
- (2) イスラム文化に即した美術教育の理論化
- (3) イスラムと美術教育との関係性の地域間比較

4. 研究成果

本課題採択以前の時期も含めた過去数年で実施した、モルディブ、イギリス、エジプト、それぞれ異なる特色をもつイスラム文化圏3カ国におけるこれまでのフィールドワークを通して、ムスリムである教師たちにはイスラムに基づく価値観・習慣等を美術教育に結びつけて解釈し、自らの教育実践に宗教的価値を付加する傾向があり、それは各地域の特色を反映しながらもある程度の一般化が可能な現象であることを明らかにした。「美術教育を通じたイスラムの実践」と独自に定義したこの現象の理論的な解明を目指し、「美術科授業」「イスラムの実践」「宗教的根拠」の関係性を暫定的に構造化する作業を行った。2018年7月の国際美術教育学会(InSEA)ヨーロッパ地域大会(於:ヘルシンキ、フィンランド)ではその地域間比較について、2019年の7月の国際美術教育学会(InSEA)世界大会(於:バンクーバー、カナダ)では多文化社会であるイギリスの事例に焦点を当てた分析について、それぞれ口頭発表を行った。

2020年度以降は、世界的なパンデミックにより新たなフィールドワークを目的とした海外渡航を断念せざるを得なくなったが、その間に関わっていた別の国際プロジェクトやそれに関連した共同研究の実施を通して、本研究を大幅に発展させた大型研究課題(国際共同研究強化(A))

の採択に繋げることができた。本研究課題に続けて採択された若手研究も並行して遂行し、イスラムを含めた多様な文化と美術教育との関連を探究する試みを続けてゆきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 箕輪佳奈恵	4. 巻 -
2. 論文標題 《エッセイ》モルディブと私 「人との出会いと研究と」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 《アジア・日本研究Webマガジン》 アジア・マップ Vol.1	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Kanae Minowa
2. 発表標題 Using Art Education as a Medium to Cultivate Muslim Identity in a Multicultural Society
3. 学会等名 The International Society for Education through Art World Congress in Vancouver, Canada (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 箕輪佳奈恵
2. 発表標題 モルディブの美術教育
3. 学会等名 日本貿易振興機構（JETRO）アジア経済研究所「モルディブの政治・経済・社会」研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kanae Minowa
2. 発表標題 An inter-regional comparison of the practice of Islam through art education
3. 学会等名 InSEA CONGRESS 2018 Finland (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 荒井悦代、今泉慎也（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 346
3. 書名 モルディブを知るための35章	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
英国	University College London		